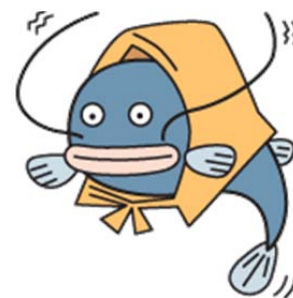


緊急地震速報

なまずきん

マンスリー レポート

2014年 6月号



発行元 株式会社 ハレックス

〰 〰

火山の量的降灰予報が始まります —平成27年3月より、気象庁—

どの位の降灰が予想されるかを伝える『量的降灰予報』の運用を平成27年3月より開始するとの報道発表が気象庁よりありました。火山噴火に伴い空から降ってくる火山灰（降灰）は、その量に応じて様々な被害をもたらします。このたび、気象庁ホームページに『量的降灰予報』を周知・広報するページが設けられ、『量的降灰予報』の紹介や説明がされています。ここでは、その概略を紹介します。

『量的降灰予報』の周知・広報用ページ（気象庁）

<http://www.jma.go.jp/jma/press/1406/17a/kouhaiyoho140617.html>

■量的降灰予報とは

現在、気象庁が発表している降灰予報（平成20年3月31日運用開始）は、降灰が予想される範囲をお知らせするもので、降灰量などの定量的な予測は行われていません。

バージョンアップされた降灰予報における主な特徴は次のとおりです。

- ・降灰量の予測を含めた予報（『量的降灰予報』）として、噴火後に、どこに、どれだけの量の火山灰が降るかについて、詳細な情報をお伝えするものです。
- ・また、降灰量の情報を、わかりやすく、防災対応が取りやすいように伝えるため、降灰量が階級で表現されます。降灰量を、降灰の厚さによって「多量」「やや多量」及び「少量」の3階級に区分し、降灰量階級表では、それぞれの階級における「降灰の状況」と「降灰の影響」及び「とるべき対応行動」が示されています（図2）。

■情報発表の流れ

量的降灰予報は、「噴火前の情報」「噴火直後の速報」「噴火後の詳細な予報」の3種類の情報に分けて発表されます（図1）。また、量的降灰予報を防災情報として有効に活用頂くため、降灰の影響ととるべき行動を降灰量ごとに整理した降灰量階級表も合わせて提供されます。

活動が活発化している火山では、もしも今日、噴火が起こるとしたら、この範囲に降灰があります、という事前の情報も提供されます。さらに、噴火直後には、風に流される小さな噴石が降る範囲についても提供されます。

図1 情報発表の流れ

「噴火前の情報」「噴火直後の速報」「噴火後の詳細な予報」の3種類の情報に分けて発表されます

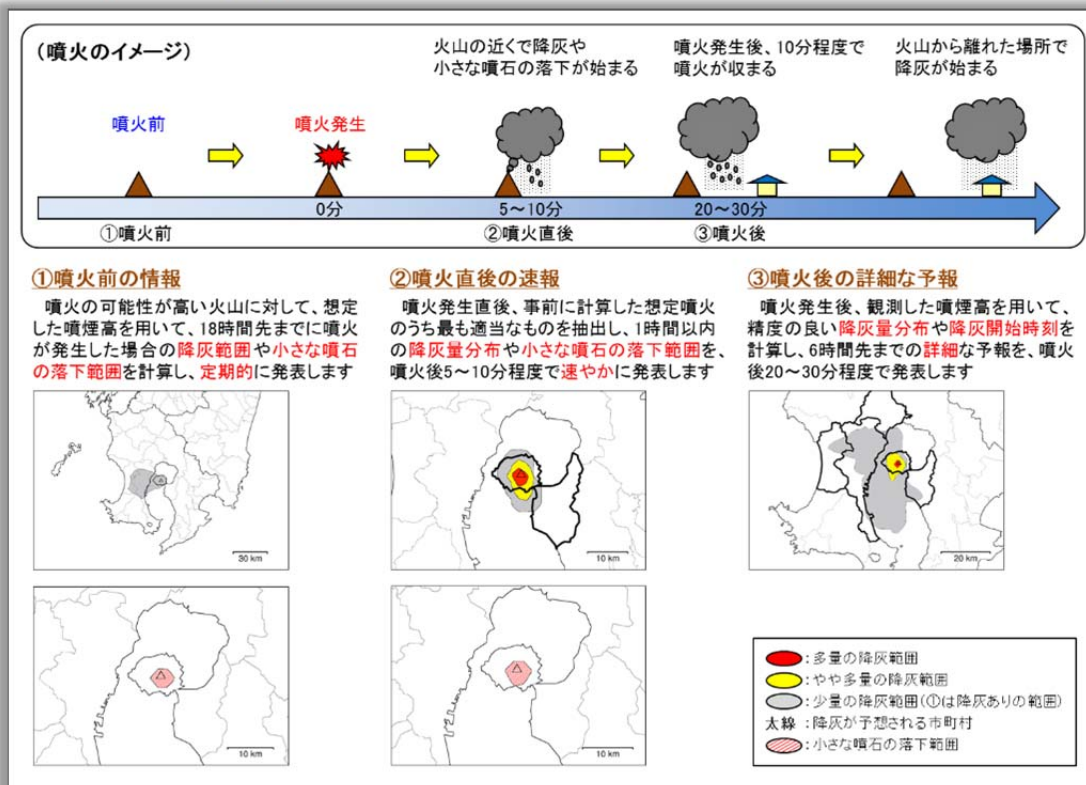


図2 降灰量階級表

わかりやすく、防災対応が取りやすいように伝えるため、降灰量が階級で表現されます。

名称	表現例		影響ととるべき行動		その他の影響
	厚さ キーワード	イメージ※1 路面 視界	人	道路	
多量	1mm 以上 【外出を控える】	完全に覆われる 視界不良となる	外出を控える 慢性の喘息や慢性閉塞性肺疾患(肺気腫など)が悪化し健康な人でも目・鼻・のど・呼吸器などの異常を訴える人が出始める	運転を控える 降ってくる火山灰や積もった火山灰をまきあげて視界不良となり、通行規制や速度制限等の影響が生じる	がけへの火山灰付着による停電発生や上水道の水質低下及び給水停止のおそれがある
やや多量	0.1mm ≤ 厚さ < 1mm 【注意】	白線が見えにくい 明らかに降っている	マスク等で防護 喘息患者や呼吸器疾患を持つ人は症状悪化のおそれがある	徐行運転する 短時間で強く降る場合は視界不良の恐れがある 道路の白線が見えなくなるおそれがある(およそ0.1~0.2mmで鹿児島市は除灰作業を開始)	稲などの農作物が収穫できなくなったり※2、鉄道のポイント故障等により運転見合わせのおそれがある
少量	0.1mm 未満	うすすら積もる 降っているのがようやくわかる	窓を閉める 火山灰が衣服や身体に付着する 目に入ったときは痛みを伴う	フロントガラスの除灰 火山灰がフロントガラスなどに付着し、視界不良の原因となるおそれがある	航空機の運航不可※2

※1 掲載写真は気象庁、鹿児島県、(株)南日本新聞社による
※2 富士山ハザードマップ検討委員会(2004)による想定

(気象庁報道発表資料より)

～～～ なまずきんの働き（2014年5月） ～～～

【発信数等概要】

5月に緊急地震速報（警報）が発表された地震はありませんでした（4月もありませんでした）。また、緊急地震速報（予報）が発表された地震の回数は53回（4月は62回）でした。発信の総数は260通（4月は333通）でした。緊急地震速報の予測震度4以上と報じた地震の回数は2回（4月は5回）、予測震度3と報じた地震の回数は11回（4月は19回）でした（表1・2）。

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の余震は、次第に少なくなっているものの、最大震度4以上を観測した地震が1回、震度1以上を観測した地震が53回発生するなど、引き続き岩手県から千葉県北東部にかけての沿岸及びその沖合の広い範囲で発生しました（気象庁）。

余震回数（2011/03/11 14:46～2014/5/31 24:00、本震を除く）は、M7.0以上が8回、M6.0以上が112回、M5.0以上が812回となっています。

表1 緊急地震速報で最大震度が4以上と予測された地震及び警報発表回数（2014年5月1日～31日）

	予測震度4以上の発表回数		警報発表回数	
東北地方太平洋沖地震の余震	1回	計2回	0回	計0回
上記以外	1回		0回	

表2 緊急地震速報で最大震度が3と予測された地震の回数（2014年5月1日～31日）

	予測震度3の発表回数	
東北地方太平洋沖地震の余震	1回	計11回
上記以外	10回	

【岐阜県飛騨地方から長野県中部にかけての地震活動】

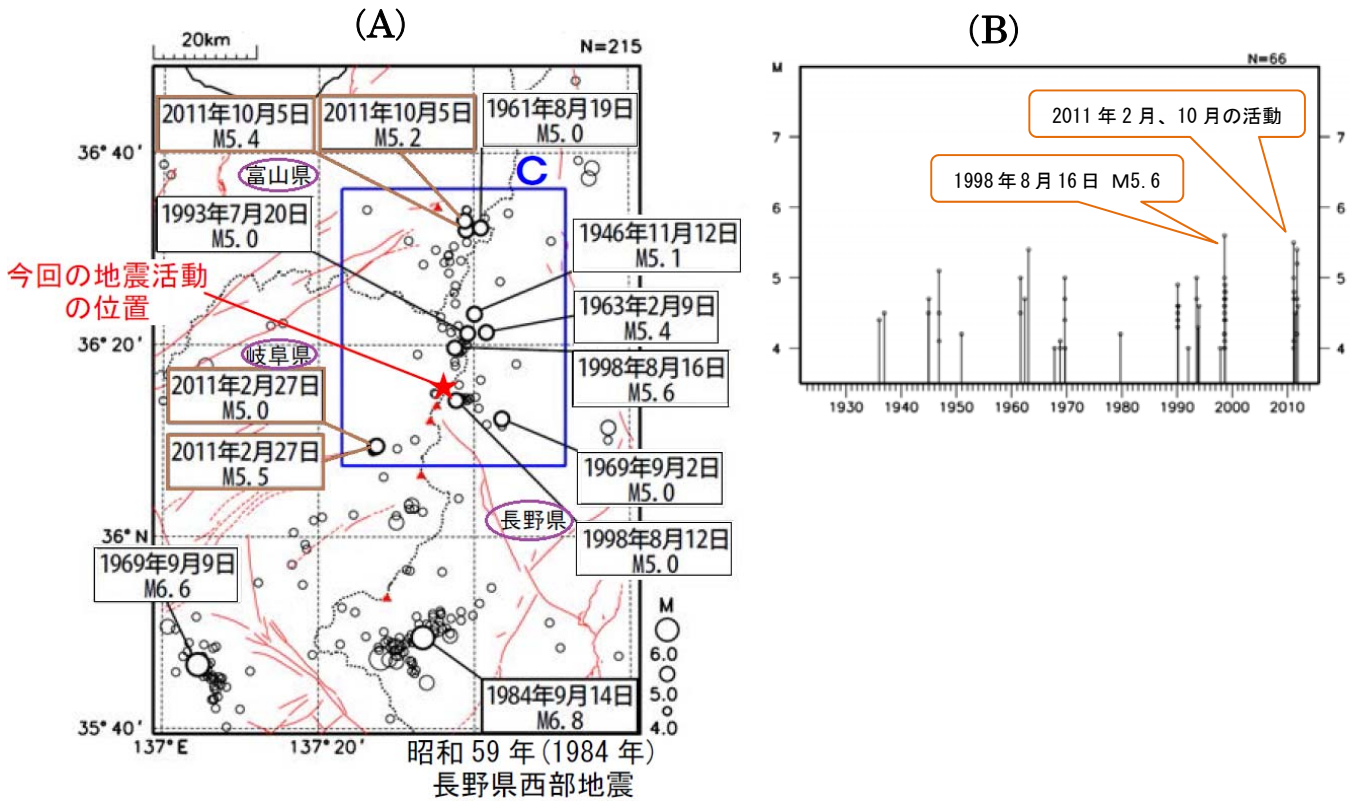
5月3日10時頃より、岐阜県飛騨地方から長野県中部にかけて（岐阜・長野県境）、地震活動が活発となりました。この活動で、震度1以上を観測する地震が47回（最大震度3：9回、最大震度2：9回、最大震度1：29回）観測されました（5月31日現在）。なお、活動は5月6日以降は低調となっています。5月の最大規模の地震は、3日15時26分のM3.9の地震（最大震度3）でした（表3）。

表3 5月に発生した最大規模の地震の震源要素

地震発生日時 月/日 時：分	震央地名	北緯	東経	深さ (km)	マグニチュード(M)	最大震度
05/03 15：26	長野県中部	36度14.8分	137度36.0分	2km	3.9	3

図3 震央分布図(A)とM-T図(B)です。

図A・Bとも1923年1月1日~2014年5月31日、深さ0~50km、マグニチュード4.0以上の地震を描画しています。



- (A) : 今回の地震活動(★)の周辺における地震活動の様子(震央分布図)です。
 今回の地震活動(★)で最大規模の地震は、5月3日15時26分のM3.9(深さ3km、最大震度3)です(5月31日現在)。
 青色実線矩形領域内(C)で見ると、県境(長野・岐阜、長野・富山)沿いにおける地震活動が確認できます。
- (B) : 青色実線矩形領域内(C)のM-T図(マグニチュード4以上の地震を年別に表示)です。マグニチュード5前半の地震が時々発生しています。2011年2月と10月に(図A:実線茶色矩形で示した地震)にM5.0を超える地震がまとまって発生しています。

(気象庁地震火山月報資料より)